

商店街名：稲武商工会（豊田市）

キャッチコピー

皆さまのお買い物・生活・コミュニティに対応できる
稲武商店街を目指します

◎ 商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇ 地域の状況（2025年度頃）

- 稲武地区の人口は2,000人を割込み、65歳以上人口が50%を超え、地域の活力が衰退する。
- どんぐり横丁（道の駅内）のリニューアルオープン、新伊勢神トンネルや広域農道の開通により人流・車流が変化する。
- 移住者が増えている。



◇ 商店街の姿

- どんぐり横丁（道の駅内）を活用して、周辺住民や観光客を商店街内に誘導することにより新規顧客が増える。
- 新伊勢神トンネル開通により、観光バスや自転車の通行量が増え、新規顧客が増える。
- 移住者による商店街での創業が増える。

◇ 地域の状況（2030年度頃以降）

- 稲武地区の人口は1,500人近くまで減少し、65歳以上人口は65%を超え、より一層の高齢化が懸念される。
- 高齢化が懸念される中、増える移住者により創業が増えている。



◇ 商店街の姿

- 稲武地区内だけでなく、周辺地区住民を商店街へ誘導するため、移動販売事業に取り組む。
- 移住者による創業により、商店街のテナントミックスが進む。

◎ 未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）

【構想計画期間：2022年度～2025年度】

- データ収集・分析（地域住民のニーズ調査、客層や商圈分析、街区調査、来店調査 他）
- チャレンジショップ事業の実施（「どんぐり横丁」（道の駅内）で実施予定）
- 計画策定
- ネット通販事業（稲武産商品をまとめたホームページの整備 等）
- リモート体験事業（こだわり商品の製造風景や収穫体験）

◎ 実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：若手商店主5名を含む計10名

(2) 地域プラットフォーム

名称：稲武商工会経営発達支援計画検討会

目的：稲武地区商店街の将来の姿を描くため、地域の関係者の商店街に対するニーズを汲み上げ、実現に向けて意見を伺うこと。

参画：商店主、市町村、地域住民、学校

◎ 想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

- 全戸アンケート調査結果
車に頼らないと買物ができない状況であり、今後への不安/交通手段が不便/移動販売や宅配に関心がある人が多い/地元で買物をしたことがない方も多く、地元の商店は何でも高いというイメージが強い
- ヒアリング調査結果
コープ岐阜等の利用や、地域外に買い物に出かける人が多い/店の対応に不満を持っている人も多い
- 地域プラットフォームにおける意見
 - ・ 国道153号の通行量は増えているのか減っているのか把握する必要がある。（広域農道等外的環境が変化している）
 - ・ 道の駅のリニューアル等により、商店街の集客にどのような影響があるのか把握する必要がある。
 - ・ 高齢者向けに買い物配達事業を行っているが、移動販売等を検討してはどうか。